「日々の理科」（第 3514 号） 2024,-3,21

「青春１８切符・日帰り大旅行（４）」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所
田中　千尋　Chihiro Tanaka

現在の国府津駅は御殿場線の乗り換え駅であると同時に、御殿場線の線路沿いに JR 東日本の車両基地があるので、東京方面への始発列車や、東京方面からの国府津止まりの列車も多いです。しかし、静岡方面への列車は最遠でも沼津行きと伊東行だけで、昭和時代のように、静岡行や浜松行の普通列車はありません。

ところが、早朝に一本だけ静岡行の普通列車が設定されています。それが JR 東海の御殿場線経由静岡行です。御殿場線の列車はほとんどが国府津～沼津の往復なので、静岡へ直通する列車は「貴重品」です。

発車の十数分前にその一日一本しかない「貴重な静岡行」が入線してきました。現在、東京では決して見ることがない、JR 東海色の電車です。３１３系電車と呼ばれる形式で、２両編成と３両編成があるようです。２両のものはクロスシート（急行列車のような向かい合わせの座席）、３両のはロングシート（通勤電車のような座席）です。この静岡行は豪華５両編成で、前３両がロングシート、後ろ２両がクロスシートでした。私は景色が見やすく「旅気分」になれるクロスシート車に乗りました。早朝の発車なので、車内は空いていて、座席はまばらに埋まっている程度でした。

電車側面の方向幕（行先表示器）にもわざわざ「御殿場経由」と表示されていました。東海道線の熱海方面の旅客が間違えないようにとの配慮でしょう。現在の関東地方の JR 東日本の駅で「普通・静岡行」の表示が見られるのは、早朝の国府津駅だけです。

国府津を出てしばらくすると、右側に丘陵が見えます。これは「曽我丘陵（そがきゅうりょう）」と呼ばれる地形です。ここはかつて「フォッサマグナ（大地溝帯）の東の構造線（境界線）」・・・「直江津-国府津線の南端」と考えられていたことがある丘陵です。私は高校生の時の地理の時間に、そう教わりました。

フォッサマグナの西の構造線は「糸魚川-静岡線」でほぼ確定していますが、東の構造線は現在でもはっきり確定されていません。現在は「柏崎-千葉線」「柏崎-銚子線」など諸説ありますが、いずれの説をとっても、フォッサマグナの範囲に関東平野や東京も含まれていて、今回の旅行範囲もすべてフォッサマグナ内です。